各地で東北支援の輪

応援ソングを被災地へ
代表児童4人が訪問

瑞穂四小と福生ＪＣ

瑞穂町立瑞穂第四小学校（伊藤誠治校長、児童数604人）の児童4人は3月9日、同校教員、保護者、福生青年会議所（佐藤和義理事長）のメンバーと宮城県塩釜市、南三陸町、亘理町を視察。22日に、視察報告を同校の修了式で行った＝写真。

同校3年生以上のクラス委員24人で構成する代表委員会は昨年5月、「自分達でできる被災地支援」を計画。7月には、身近で被災地支援の活動を行っている福生ＪＣから支援活動の様子を聴く会が開かれ、12月には塩釜市で被災した矢部亨さんを招いて講演会を行っている。

矢部さんの「被災地を忘れないでほしい」との思いは子ども達に伝わり、代表委員会で「愛情の押し売りにならないよう瑞穂四小自慢の歌と寄せ書きを被災地届けること」が決まった。

視察地や応援歌贈呈は、過去に何度も被災地を訪れていた同ＪＣが仲介し、確実な送り先と現場の安全性を確保。2月28日には、応援歌「トゥモロー」「心の中にきらめきを」のＤＶＤ収録が同校で行われ、亘理町立長瀞小（鈴木千代子校長）に届けることになり、3、5年生各1人と6年生2人の訪問となった。

報告会で現地を訪問した児童は、「復興はまだ全然進んでいないと思う」「被災した校舎が取り壊される日、『誰も最後を見学する子はいなかった』という話が印象的でした」など、現地で撮影した写真を見ながら感想を語っていた。

「ＤＶＤに収録されている子どもの表情は真剣そのもの。ＪＣの皆さんの繋がりがあってこそ、四小児童の思いが伝えられた。現地に行っていない在校生にとっても次の支援を考える貴重な機会になった」と、伊藤校長は話していた。

福島っ子が元気にキャンプ
にわ大の授業も

あきる野などで

福島の子どもたちを招いた「福島っ子元気村キャンプin西多摩」が3月28日～4月3日まで、あきる野市戸倉の「五日市協同村ひだまりファーム」を拠点に行われた。

日の出町で活動するＮＰＯ法人「花咲き村」と、一般財団法人「みんなの森財団」（事務局＝千代田区）が昨年の春と夏に開催し、3回目となった今回は、同財団の有志らで立ち上げた「福島っ子元気村キャンプ実行委員会」（堀内拓馬村長）が主催した。

キャンプには、福島県郡山市や福島市から小学生26人が参加。同ファームの古民家に宿泊しながら、西多摩での自然体験や催しを楽しみ、多くのボランティアスタッフ、さまざまな団体が協力して子どもたちを見守った。

3月30日には、多摩地域をキャンパスに活動する「東京にしがわ大学（酒村なを学長）の授業「オトナとコドモのかくれんぼ」が、同ファームで行われた。当日は降雨により室内での実施となったが、レクリエーションインストラクターの中川洋一さん（36、日の出町在住）が講師となり、工夫を凝らしたゲームやマジックショーなど、子どもたちと大人たちが一緒に遊んで交流した＝写真。

小学6年の男児は、「新聞紙を使ったゲームが楽しかった」と話し、講師を務めた中川さんは、「子どもたちの元気な笑顔を見ることができて、私たちもパワーをもらった」と話した。

「今回は食べ物の大切さを伝えるをテーマに、食に関する体験を多くした」と言う同実行委の堀内村長（40）は、「福島の子どもたちは、直接自然に触れることが出来ず、目に見えない放射能への不安がある。その状況は今も変わっていない。最低でも5年を目標に、今後もキャンプを継続していく」と話していた。

被災地支援を継続
2年間の活動を冊子に

スジャータプロジェクト

東日本大震災被災地したボランティア団体「スジャータプロジェクト」は3月10～12日、宮城県気仙沼での3回忌法要に参加し、犠牲者の鎮魂や炊き出しなどの支援活動を行った。

11年4月1日に、渡邉住職が僧侶仲間らと気仙沼の地福寺へ向かい、本堂復旧作業などの支援をしたことが同プロジェクトのきっかけだという。これまで、宮城や福島県の被災地を定期的に訪れ、物資の搬送やがれき撤去、炊き出しの提供、墓の仮修復、犠牲者の鎮魂ほか、物産品やオリジナルグッズの制作・販売など、関係各団体と連携しながら幅広い支援活動を続けている。

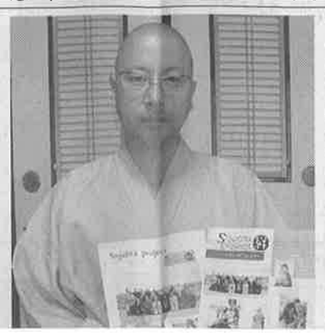
10日に、地福寺で営まれた3回忌合同法要には、渡邉住職ら僧侶7人と一般のボランティア17人も参加し、法要のほか、焼きそばと建長汁の炊き出しを実施。翌11日の午後2時46分には、南三陸町の防災庁舎前で黙祷を捧げたという。

渡邉住職は、「がれきの撤去は進んでいるが、震災当初らない場所る。それを毎ている現地のを思うと、自できるのかとはいられない

同プロジは、活動の記ごとに冊子にこのほど2冊し、1万部を「活動を続けありがたいくの人々が協れること。現なくてもできある。思いをる人がいるていくことが役目だと思と渡邉住職。

今後も活し、物産展参問ツアーなどていくという

ボランティア参加希望者集している。い合わせはージ（http://arta2011.co



▶スジャータプロジェクトのこれまでの活動をまとめた冊子を手にする渡邉住職

蛇喰い次右衛門に村山土佐守
景観モニュメントで像を設置

瑞穂町

瑞穂町は3月23日と31日、景観モニュメントの設置事業として、狭山池公園内に「蛇喰い次右衛門」、同町殿ヶ谷の玉林寺公園内に「村山土佐守」像を建立。両日、同地で像の除幕式典を開催した。

同町では、「まちへの愛着とこころの潤いづくり」を基本方針として、地域に伝わる民俗や伝承などを題材にした景観モニュメントの設置を進めている。また、モニュメントは人との交流を生む景観スポットとして位置付け、今回初めて設置された。

狭山池公園に設置された「蛇喰い次右衛門」は、当時の狭山池が「筥ノ池」と呼ばれていた約350年前の江戸時代の話として残っている伝説で、池で水浴びしていた次右衛門に蛇が噛み付き、捕まえようとしたところ大蛇となり、傷口から流れ出た血で池が染まり、その水の流れで出来た川が「蛇に掘られた川」、「蛇掘川」となり、後に「残堀川」となったという。

また、「村山土佐守」は平安時代後期から鎌倉・室町時代にかけて武蔵国を中心に勢力を伸ばしていた同族的武士集団の武蔵七党。村山土佐守は、中世豪族として村山氏最後の人物と言われている。

狭山池での式典には町関係者のほか地元町内会、子供会から町民が参加。テープカットも行われた。石塚幸右衛門町長は「語り継がれる伝承を大切にし、像を始め景観モニュメントが、多市町村から人が集まる活性化に役買うことを願っています」と話していた。

市内初の
放課後等デイサービス
「歩っ歩」が開所

福生に

特別支援学校・学級に通う児童、生徒を対象に、放課後等デイサービス事業を行う「ＵＳＳＡ地域福祉事業所　歩っ歩（ぽっぽ）」（運営＝ＮＰＯ法人ワーカーズコープ）が1日、福生市武蔵野台に開所した。

放課後等デイサービスは、学校（幼稚園、大学を除く）に就学している障害児に対し、放課後や夏休み等の長期休暇中に、社会性などを育む個々に合った活動を提供して自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを推進するもの。

同法人組合員の出資金のほか、地域の保護者らからの協賛金を得て、ビルの一室に開設された。同施設には、元特別支援学級教員やソシャルワーカーなどの職員が配置され、育児相談や育児情報の提供なども行っていく。

3月31日の開所式典には、加藤育林田武都議、藤田徹理事都議、同市来賓合わせ席。市内3・学童クラるワーカー生市内で初デイサービ各地でも開いる。『歩